

## 令和5年度 都城市立山田中学校「学校評価及び改善計画」

目標	評価項目	生徒評価	保護者評価	職員評価	総合評価	現状分析	次年度に向けての改善策	学校運営協議会の意見
学力の向上	基本的学习習慣	3.3	2.8	3.2	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的な学习習慣については、各教科担任や学級担任の指導が適切に行われている。全体的な評価は昨年度と同等であった。</li> <li>○ 授業の工夫については、生徒・職員の90%以上がおおむね良好と感じている。</li> <li>○ 個に応じた指導に関しては、生徒の90%が「分かる、できる」手立てがとられていると回答している反面、職員が75%であり、若干の差が見られる。</li> <li>○ 家庭学習については、個人差が見られ、その結果が学力差にも現れている。ICTの活用については、朝自習や授業での活用が増えているが、まだ十分とは言えない。</li> <li>○ 家庭での学習の仕方については、生徒と保護者の間で回答の割合の差が大きい。家庭学習の捉え方についてのズレが生じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒会の取組の一環である「学習態度向上週間」の取組がマンネリ化である。取組が形骸化しないように、工夫・改善を図りながら継続していく。</li> <li>○ わかりやすい授業を目指して日々の授業改善に努める。「授業改善の4+4のチェックポイント」を押さえるとともに、生徒が主体となる授業になるように努める。</li> <li>○ 各種テストなどの資料を分析し、生徒の実態を把握するとともに、個に応じた指導に役立てていくように努める。</li> <li>○ 家庭学習の仕方を生徒・保護者が共通理解していく機会を増やすとともに、ICTの活用を積極的に推進する。</li> <li>○ 学級通信での啓発や生活の記録の指導を通して、家庭学習に対する保護者の意識を高めていきたい。また、各種検定の紹介を積極的に行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 将来に希望を抱くこと、目標を持つことなどが学習意欲に繋がるエネルギーだと思います。石川理紀之助翁が山田で子ども達に夜学を開き勉強を教えたのは、たった半年であり、その後は自学に目覚め、それぞれが重ねた努力が今の反映に繋がっていると思います。学習意欲に目覚める仕掛けが必要ではないでしょうか。</li> <li>○ 家庭学習の向上が望ましい。家庭学習において、生徒、保護者が更に共通理解を高めるために、ICT活用は異なる工夫を期待する。</li> <li>○ 各教科の理解を示す指標が欲しい。学年毎にグラフ化する工夫等をお願いしたい。</li> <li>○ 教職員が高い意識をもって授業の改善・工夫に取り組んでいる。その成果が表れ、生徒の学力も確実に伸びている。</li> <li>○ ICTの活用については、活用事例も多く紹介されている。それらを参考にしながら、導入されなければならないと思う。無理やり使って学習効果が得られないようであれば、元も子もない。</li> <li>○ ICTの活用についてははすいぶん浸透しているように思える。不登校の子供たちへの支援に活用できることを期待する。</li> <li>○ 生徒の学力がどの程度のか分かりにくい。学力テストの結果など可能な範囲で教えていただきたい。小学校や家庭との連携を強く願う。</li> </ul>
	分かりやすいように工夫	3.5	3.0	3.1				
	それぞれにあった教え方	3.5	2.8	2.8				
	メディアの活用等 家庭学習の課題	3.5	2.7	2.6				
	家庭での学習の仕方	3.5	2.6	2.8				
豊かな心の育成	積極的にあいさつ	3.7	3.2	3.2	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 明るいあいさつができる、心優しい対応ができる生徒が多く明るい雰囲気を保つことができている。</li> <li>○ 正しい言葉遣いについては、生徒、保護者、職員とも肯定的な回答が85%を超えていている。</li> <li>○ 清心清掃については、生徒、職員ともほぼ90%以上が肯定的な回答であった。家庭と連携する指導も必要である。</li> <li>○ メディア使用上のルールやモラルについては、おおむね良好と回答した生徒が95%、職員が85%、保護者は76%だった。情報モラルについては、家庭を含めて、継続的な呼びかけが必要である。</li> <li>○ 相手の気持ちや立場を考えて行動することについては、肯定的な回答が生徒、職員はほぼ90%以上、保護者も87%であった。その反面、人間関係のトラブル等も起こっている現状もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 機会ある毎に、「あいさつ運動」や「ボランティア活動」等を呼びかけ、さらに活性化するよう日々の指導を確実に行う。</li> <li>○ 言葉遣いについては、職員自ら正すと共に、常時指導として、時と場に応じた言葉遣いや呼称など、適切な指導を継続して行う。</li> <li>○ 本鈴を清掃場所で迎え、黙想し、清心清掃に没頭できる雰囲気を作るとともに気づき清掃の徹底に取り組む。また、職員が確実に清掃場所に行き、生徒と共に清掃活動に取り組む。</li> <li>○ メディア使用上のルールやモラルに関しては、まだまだ指導が徹底できていない。さらに、ICTの活用が進む中で喫緊の課題であり、家庭と連携した指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ あいさつの良さや思いやりなどが安定して評価が高いのは、伝統ある清心清掃に起因するものではないでしょうか。今後も続けていただきたいです。</li> <li>○ 情報モラルについては、更なる工夫を期待する。相手の気持ちや立場については、肯定的な回答が生徒、職員も高いが、多少の人間関係トラブルが起こっていると分析されている。これ以上の対応はないと思うので、そのままにしておくことで、本人達がその後に成長すると思える。</li> <li>○ 校内や集団の時はよくあいさつしてくれるが、個人になった時の声が小さい。</li> <li>○ 明るい挨拶や正しい言葉遣いができるることは、学校全体の雰囲気も良いという証拠だと考える。引き続き取り組んでいってほしい。</li> <li>○ メディアの使用は、学校の指導だけでは徹底できないため、家庭との連携を重視して取り組んでいく必要がある。〇命の講話を、先生の交代制で行うのは面白い。デリケートな部分の教育なので、様々な話が聞けてよい。</li> <li>○ メディアコントロールについては、引き続き指導が必要である。</li> <li>○ 登下校の際は、挨拶を行っている。欲を言えば、自分から先に挨拶する習慣が育ってほしい。</li> </ul>
	正しい言葉遣い	3.7	3.2	3.2				
	清心清掃	3.6	3.1	3.2				
	社会並びにデジタル使用上 ルールやモラル	3.7	3.0	3.0				
	相手の気持ちや立場	3.7	3.1	3.3				
体力の向上	正しい姿勢（立腰）	3.0	2.7	3.2	3.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 正しい姿勢（立腰）については、各学期に立腰指導徹底週間を実施しているが、生徒と保護者の肯定的な回答が若干低い。</li> <li>○ 規則正しい生活については、おおむね良好と回答した生徒が88%に対して保護者は68%と低く、生徒よりも厳しい見方をしている。</li> <li>○ 体力テストの結果では、A評価を受ける生徒が3年男子が多い。女子は、全体的に低調である。体力の二極化が進んでいる現状にある。</li> <li>○ 部活動については、加入するすべての生徒が積極的に取り組むことができている。学校外の社会体育でスポーツをする生徒も増えてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 正しい姿勢（立腰）を意識するために、これまで通り、授業の始まりと終わりに立腰指導を、全職員共通理解のもと、常時指導として行う。家庭に対しても、通信や参観日等で取組を啓発していく。</li> <li>○ 規則正しい生活については、今後とも学級通信や保健だより等で生徒、保護者に啓発していく。</li> <li>○ 体力向上については、さらに継続して体育の授業での導入段階で、基礎トレーニングを行い、筋力アップ・敏捷性アップにつなげる。また、授業を工夫し展開することで学習意欲を向上させ、二極化の改善を図る。</li> <li>○ 部活動については、「部活動生集会」を実施し、部活動生としての意識、自覚を高めさせる。また、「キャブテン会」を充実させ、主体的に運営ができるようにサポートする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体力の向上の二極化を懸念します。汗をかく爽快さや達成感、心地よい疲労感を抱きながら無理なく続けられる運動習慣を子どもの時から身につけさせたいものです。</li> <li>○ 体力の向上については、具体的な改善内容を期待する。</li> <li>○ 免疫力の低下か、コロナ禍以降の欠席が目立つ。</li> <li>○ 日頃から日常的に運動する機会を持つことは、部活動に所属している生徒はクリアできるが、運動を取り入れていない部活動や部活動に所属していない生徒にとっては、体育の授業と登下校程度となっている状況だと思う。食事が体を作ると考えるので、規則正しい生活とともに、食事の中身についても家庭と連携して健康に留意させたい。</li> <li>○ 目覚ましい活躍が光った年だった。体力の二極化が進まないように注意が必要だ。</li> <li>○ 部活動の数が限られ、所属する生徒の数が少ないと感じる。何らかの部活動に所属できる形態を作り、打ち込み活躍する姿が見たい。</li> </ul>
	規則正しい生活	3.4	2.9	2.8				
	体力の向上	3.3	2.9	2.4				
	部活動に積極的	3.6	3.3	2.8				
る地 人材に の貢 献成す	地域（山田町）に关心	3.1	2.6	2.8	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域への関心については、地域行事等も行われるようになり昨年度より、肯定的な回答が増えている。しかし、まだ、満足できる状況ではない。</li> <li>○ ボランティア等については、全学年を通して参加する生徒が増えている。ボランティアの必要性を感じる生徒は、全体的に増えており良い傾向にある。</li> <li>○ 今年度は、7月13日（木）～15日（土）の日程で、中学生3名、小学生6名、引率5名で潟上市を訪問した。11月13日（月）に、潟上市から3名の来訪があった。上記事業や交流については、地域と連携し無事に終えることができた。</li> <li>○ 家庭への情報提供については、保護者、職員とも肯定的な回答が多かった。学級通信や保健だよりの発行や感染症の予防等に対する情報を提供し、流行を未然に防ぐことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 総合的な学習の時間を中心に、地域学習を組み入れ、3年間で系統的に学んでいくように設定していく。</li> <li>○ 確実に情報が家庭へ届くように、学校からの文書に関しては、紙媒体と学校メールを使い、発信していく。また、地域に発信する場合には、ホームページを活用する。</li> <li>○ 秋田県潟上市との学校間交流事業を継続し充実させる。本年度は、潟上市を訪問した。次年度は、潟上市が訪問する予定である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 潟上市交流をはじめ、地域連携は充実できていると思います。</li> <li>○ 全学年を通じて、参加する生徒が増えていると説明があり、更なるボランティア精神の向上を期待する。</li> <li>○ 町内の祭りやイベント等に子ども達も積極的に参加できる様に、大人達が仕掛ける必要がある。</li> <li>○ 今年度からようやく様々な行事が対面でも行われるようになってきた。地域の行事も再開したものが多くなってきた。今後、地域の中学生がボランティア等で活躍する場面も多くなっていくと思われる。生徒の意識も高まりつつあるということなので、今後の活躍に期待している。</li> <li>○ 学生の地域ボランティア参加の機会も増えているので積極的な参加を。現場からの様子を学校にフィードバックすることが必要である。</li> <li>○ 積極的に地域行事に参加する姿が見られる。しかし、日程の関係上参加する生徒が限られている感もある。自治公民館との連携を密にして、活動を活性化してほしい。</li> </ul>
	地域と関わる活動 ボランティア活動等	3.2	2.6	2.6				
	家庭への情報提供	3.6	3.0	2.9				
PTA活動	広報活動		3.3	3.4	3.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 広報活動については、学校だよりやPTA新聞の発行だけでなく、学校ホームページやメールの配信も行い、学校の様子や案内文書がより確実に伝わるようにした。今後も充実させていく。</li> <li>○ 開かれた学校づくりについては、学校保健委員会、体育大会紫峰祭、駅伝・ロードレース大会など、コロナ前の内容でほぼ実施できた。そのため、肯定的な回答が95%を超えた。</li> <li>○ 家庭と学校の連携については、各種行事を復活させたことで連携を深めることができた。肯定的な回答が85%を超えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今年度も、学校ホームページのブログ配信と学校メールによる配信を行った。定期的に発行する学校だより、学級通信、学年通信等と併せて保護者や地域との連携を高めていきたい。</li> <li>○ 学校行事への参加率80%超えを目指していきたい。また、参観日の日程、学級懇談の内容を工夫し、多くの保護者が出席したくなる手立てを取っていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学校ともホームページの充実が見られます。山田中が誇れるオリジナル情報を多く発信することで、郷土愛も育まれるのではないかと期待します。</li> <li>○ 平日、休日に関係なく、各種行事が増えており、工夫を期待したい。コロナが第5類に移行し、行政や各種団体の行事が年々増加すると予想される。</li> <li>○ マスマディアをもっと活用しても良いのではないだろうか。</li> <li>○ ここ数年できていなかったことが再開し始めたが、実際はどのように取り組んでいたか具体的にわからないことが学校側にもPTA側にもある。新しい考え方ややり方で取り組んでいくことができるよいタイミングだと思う。</li> <li>○ PTの更新頻度が昨年より多く、学校の様子が非常に分かりやすい。</li> <li>○ 規制が緩和されすぐであるにも関わらず、よく活動できている。今後は、学校とPTAが一緒になり、保護者の方の学習会（テーマ各種）を行い、親も学ぶ機会を提供できたらいいと思う。</li> </ul>
	開かれた学校づくり		3.4	3.4				
	家庭と学校の連携		3.2	3.6				